



江戸



▲蔵珠院の茶室に残された洪水痕跡 (四国三郎物語より引用)



▲「寅の水」を記録した過去帳 蔵珠院所蔵 (四国三郎物語より引用)

背景

幕末の慶応二年（1866）に、阿波は天正13年（1586）の蜂須賀氏入国以来の大水と言われるほどの記録的な大雨に見舞われました。吉野川にほど近い徳島市国府町芝原の蔵珠院には、慶応二年の寅年の水の洪水痕跡とその凄まじさを伝えた過去帳が残されています。また、この洪水の恐ろしさを後世に伝えるため、平成7年（1995）には山門前に当時の水位を示す標柱が建てられました。

アクセス 蔵珠院

- 第十堰南岸より南へ直線距離約1.5km
- 徳島市国府町芝原字宮ノ本3
- 緯度経度 北緯34度05分33秒, 東経134度27分47秒



慶応二年（一八六六）に吉野川が起こした洪水は歴史上最大の洪水で、幕末の動乱期に起きた前代未聞の大水害でした。

七月末から降り始めた雨は、次第に大雨となって、八月六日の夜まで降りしきり、つづく七日の夕方には古来まれな大水となりました。連日連夜の豪雨により吉野川の水量は膨れ上がり、第十の土手などが切れ、土地の高いところでも床上二、三尺（約六〇〜九〇センチメートル）、低いところでは天井に達するほどの浸水となりました。田畑は荒らされ、家や牛馬が多数流され、避難民は舟に乗り移りましたが、四方まるで海のようになり生死のほども知れず、とどころに救助を求める声が哀れであったと記録されています。

この時の洪水の痕跡が、今でも蔵珠院に残されています。それは茶室と板戸に残されたシミで、それを見ると床上二尺（約六〇センチメートル）まで浸水していたことがわかります。蔵珠院が建つ土地は周囲の畑よりも高く、その分を計算すると浸水深は三メートルにもなります。

蔵珠院の過去帳には、この洪水により阿波の国中で三万七、〇二〇人の男女や牛馬などが溺死したことが記録されています。

